

米原市立図書館サービス基本計画 (第2次計画)



令和4年2月
米原市教育委員会

目 次

第1章 計画の概要	1
1 第2次計画策定の趣旨	
2 計画策定の目的	
3 計画の位置付けおよび期間	
第2章 第1次計画期間中の成果と課題	3
1 第1次計画の成果と課題	
2 令和2年度図書館利用者アンケート結果から	
第3章 図書館の目指す姿	18
1 計画の基本的な考え方	
2 計画の基本目標	
第4章 具体的な取組	19
1 具体的な取組	
基本目標1 市民の求める資料を提供します	
基本目標2 誰もが安心して利用できる便利な図書館を目指します	
基本目標3 子どもたちの読書活動を見守り、支援します	
基本目標4 市民と協働し、交流の場となる図書館を目指します	
基本目標5 山東図書館・近江図書館の個性を生かしたサービスを提供します	
2 新規・拡大して取り組む事項	
第5章 指標の設定と評価	27

第1章 計画の概要

1 第2次計画策定の趣旨

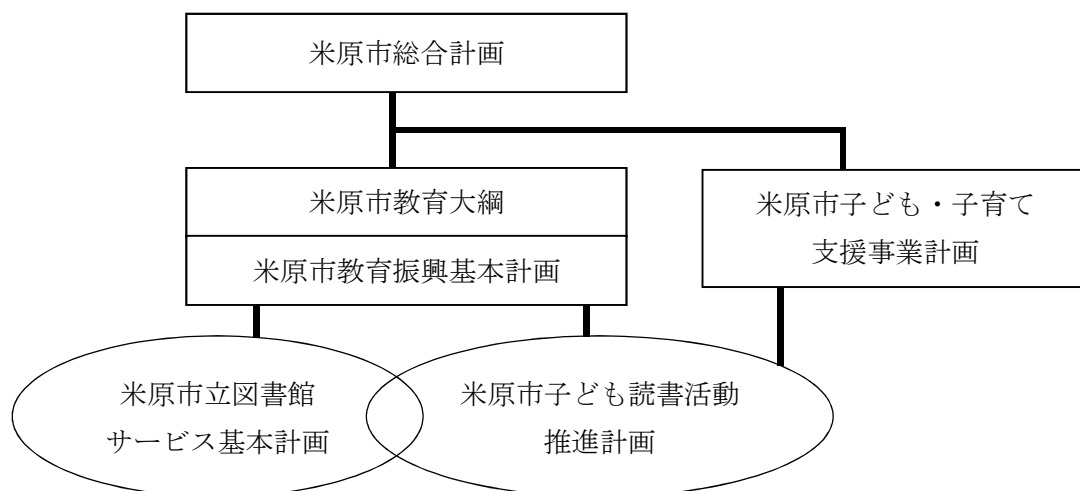
図書館法において、図書館運営の評価および改善に努めることと、運営状況に関する積極的な情報提供に努めることが規定されています。また、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」では、運営方針の策定と、それを踏まえた適切な指標・目標の設定、事業計画の策定と公表に努めることが示されています。米原市では、平成29年3月に「米原市立図書館サービス基本計画」（推進期間：平成29年度から令和3年度までの5年間）を策定し、サービスを提供してきましたが、社会情勢の変化やこれまでの取組の成果や課題を踏まえ、更なる図書館サービスの向上を目指して、「米原市立図書館サービス基本計画（第2次計画）」を策定します。

2 計画策定の目的

全ての市民に対し図書館サービスを総合的、計画的かつ効果的に提供するため、米原市の図書館が、図書館の使命や目標を市民に示し、それを実践するために策定するものです。

3 計画の位置付けおよび期間

本計画は、「米原市総合計画」をはじめ「米原市教育振興基本計画」など、その他の関連する計画と整合性を図りながら、図書館運営の基本的な方向と具体的な方策を明らかにし、関連する施策を体系的に実施するためのものです。



本計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。なお、計画策定後の社会情勢や図書館を取り巻く環境の変化に応じて見直しが必要になった場合には、適宜計画の見直しを行っていきます。

計画名	平成		令和							
	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8
	年度									
米原市総合計画	第2次									
米原市教育振興基本計画	第2期					第3期				
米原市子ども・子育て支援事業計画	第1期		第2期							
米原市子ども読書活動推進計画	第2次（H28年度）				第3次					
米原市立図書館サービス基本計画	第1次					第2次（5か年）				

第2章 第1次計画期間中の成果と課題

1 第1次計画の成果と課題

第1次計画では、「暮らしに寄り添い、地域とつながり、学び合える図書館」を基本理念に4つの基本方針を定め、それらを実現するため7つの基本目標を掲げて、サービスの提供を行ってきました。

基本目標① 市民の多様な資料要求に応える図書館

(1) 利用状況

継続的で安定的な図書館サービスを提供するため、平成29年度から開館時間や休館日の検討を行い、両館の基本的な休館日をずらすなど、令和元年度から効率的で効果的な運営形態に変更しました。

貸出をサービスの基本に据え、テーマ特集展示や冊子の作成等を工夫し、貸出の拡充に努めました。また、予約・リクエスト^{*1}制度の周知や相互貸借^{*2}の活用により市民の求める資料を提供しましたが、第1次計画期間中の推移をみると、2館の合計貸出冊数は減少傾向にあり、市民1人当たりの図書館貸出冊数も減少しています。

また、年齢別の利用人数の割合を比較すると、50歳以上の割合は増加しているのに対し、中高生や若年層については、本市の若年層の人口減少に伴い利用割合が減少しています。

【課題】

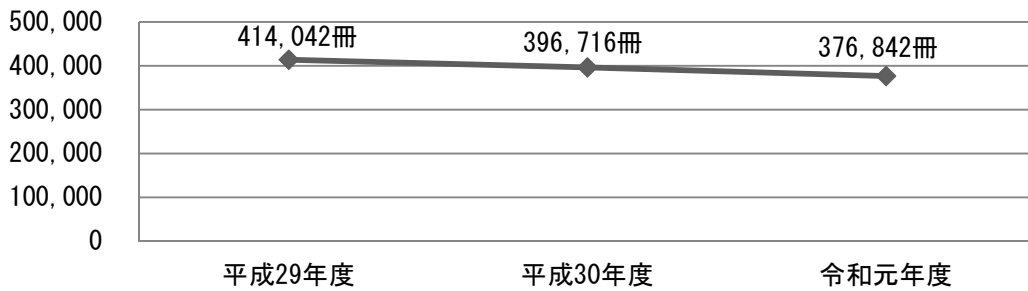
少子高齢化の進行や人口の減少、電子書籍等のデジタル化資料の普及、情報通信技術の進展等、図書館を取り巻く環境の変化とともに図書館の貸出冊数や来館者数が減少しています。引き続き図書館や読書への興味を持ってもらえるような情報発信や、状況に応じた対策を講じた上でイベント等を検討し、利用促進を図っていく必要があります。

また、毎月23日に設けている「まいばら読書の日」^{*3}を周知し、市民が読書に親しむ機会を継続的につくっていくことも必要です。

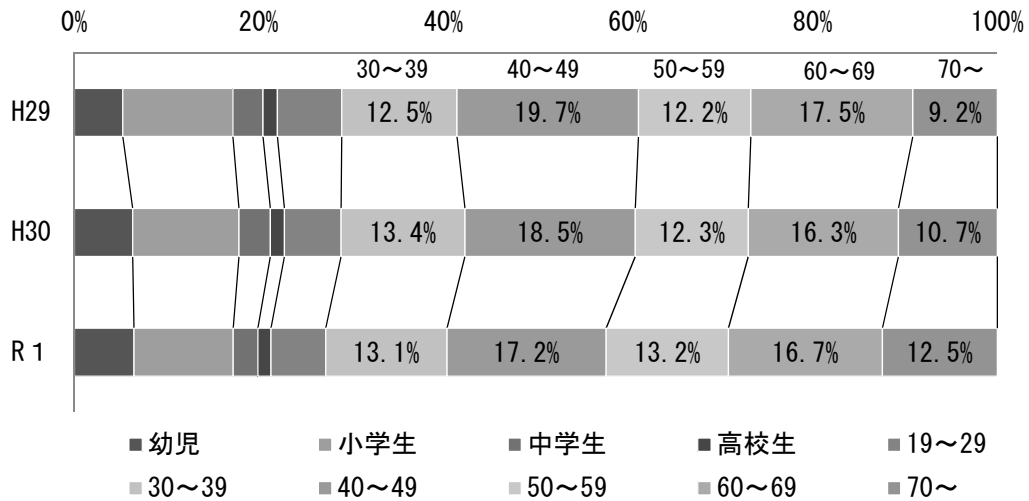
※1 予約・リクエスト：「予約」とは、図書館資料が貸出中等の場合に返却後にその資料の貸出を求めるもの「リクエスト」とは、図書館が所蔵していない資料を求めるもので、相互貸借等で借り受けて利用者に提供する。

※2 相互貸借：図書館の相互協力の1つで、利用者の求めに応じて、他自治体の図書館との間で資料の貸借をすること。

2館合計の貸出冊数の推移



年齢別貸出人数の割合



※3 まいばら読書の日：毎月23日。“家族みんなで本を読もう”“本との出会いであなたは変わる！”をスローガンに、生活の中に読書の時間を取り入れられるよう全市的に「家庭での読書と本を読む習慣づくり」を推進する取組

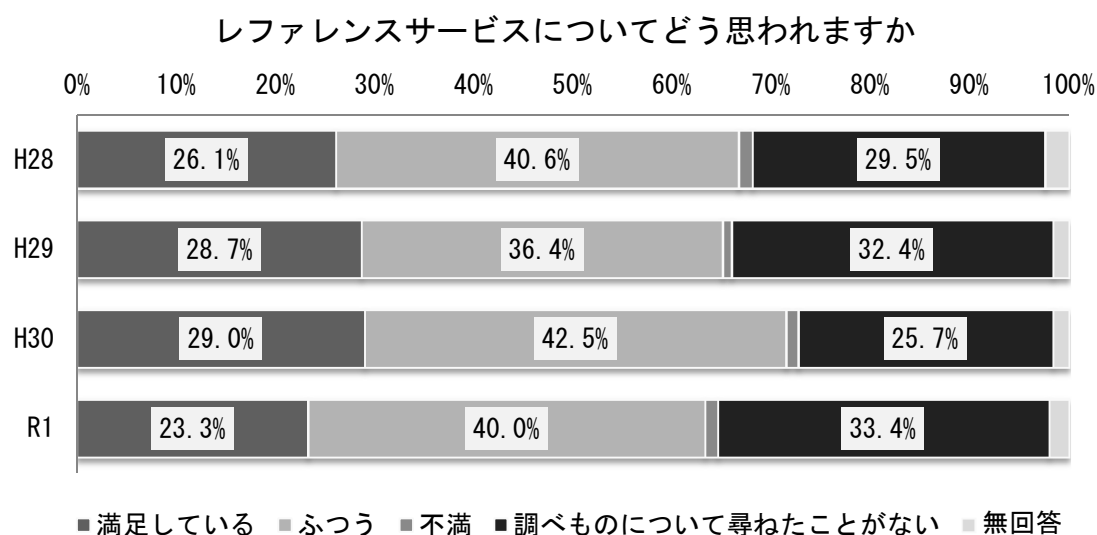
(2) レファレンス※4サービス

市民の多様な価値観による知的要求や課題を解決するため、レファレンスに使用する資料の充実に努めるとともに、両館で受けたレファレンス事例を収集し活用しました。

また、内部研修を実施し、職員のレファレンス能力向上に努めました。

【課題】

令和元年度の利用者アンケート結果を見ると、「調べものについて尋ねたことがない」が33.4%、「ふつう」が40%となっています。周知が不十分でレファレンスサービスに対する認知度が低いため、館内掲示物やレファレンス事例集等で周知を行い気軽に利用しただけの環境を整えるとともに、引き続き内部研修を実施し、職員のレファレンス能力向上を図り、レファレンス機能を強化していく必要があります。



※4 レファレンス：利用者の求めに応じて、図書館職員等が調査・研究に必要な本の紹介や資料の検索の手助け等を行うこと。

(3) 蔵書管理や雑誌の受入れ

誰もが身近に利用できる文化・情報拠点として市民の多様な読書要求に応えるため、両図書館で協議・分担して様々な価値観や観点からの幅広い資料を収集し、新鮮で豊富な資料の提供に努めています。

また、事業終了した「本はともだち おはなし隊派遣事業」^{※5}用絵本を図書館で活用できるよう整理する、記述内容が時代に合わなくなった資料等を計画的に除籍し、図書館の本のリサイクルにより市民に還元する等、蔵書と収蔵スペースを有効活用するよう努めました。

雑誌については、図書館で購入している雑誌のほかに、雑誌スポンサー制度^{※6}や寄贈の受入れ等により目標値を上回る年もありましたが、近年は雑誌の休刊等もありタイトル数が減少しています。

【課題】

両図書館ともに収蔵スペースに限りがあるため、引き続き計画的な資料の除籍と更新を行い、市民の要求に応えられる蔵書を維持していく必要があります。

雑誌については、新たな雑誌スポンサーの開拓や寄贈雑誌の情報収集を行い、雑誌タイトル数を増やしていく必要があります。

※5 本はともだち おはなし隊派遣事業：図書館から配本車「本はともだち号」で市内の幼稚園や保育園等に出かけ、絵本や紙芝居を貸し出し、ボランティアの協力を得て本とお話を届ける事業

※6 雑誌スポンサー制度：個人・企業・団体・商店等に、図書館で購入する雑誌の年間費用を御負担いただく制度スポンサーとなった雑誌のカバー等にスポンサー名や広告の掲示ができる。

指標		実績						目標
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
(1)	市民1人当たり図書館貸出冊数	11.5冊	10.9冊	10.5冊	10.1冊	9.7冊	6.7冊	8冊
(2)	蔵書更新率	3.9%	3.4%	4.6%	8.3%	3.2%	4.6%	4.7%
(3)	レファレンス満足度	40.5%	37.0%	42.5%	39.1%	35.0%	43.1%	50.0%
(4)	市民の実利用者率	16.1%	15.4%	15.2%	15.2%	14.7%	11.1%	11.4%
(5)	受入雑誌タイトル	216誌	225誌	232誌	200誌	204誌	209誌	220誌
(6)	県内外図書館との相互貸借件数(借受数)	1,547冊	1,687冊	1,531冊	1,363冊	1,254冊	1,177冊	1,200冊

基本目標② 市民の生活に密着し、地域の課題解決に役立つ図書館

(1) 郷土資料・行政資料の受入れ

蛸、埴輪、伊吹山等の郷土のテーマとなる資料や、文化財所管課等と連携し、地域の文化を継承する資料の収集・保存を行いました。

また、市内の機関や団体、在住者等が作成したパンフレットや地域に関する新聞記事等も郷土資料・行政資料として積極的な収集・保存に努めています。

【課題】

地域の歴史や文化を継承していく上で、郷土資料・行政資料の収集・保存は公共図書館の大切な役割です。図書館と市内関連施設との資料収集の体制が十分に整備できていないため、資料収集の協力体制を更に強化する必要があります。

また、図書館で所蔵している資料が学校での地域学習に役立つように学校司書と連携し、情報を発信していくことも必要です。

指標		実績						目標
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
(7)	郷土資料・行政資料の受入れ件数	206 冊	413 冊	386 冊	343 冊	285 冊	315 冊	250 冊
(8)	まちづくりに関する資料の貸出冊数	—	530 冊	423 冊	230 冊	169 冊	181 冊	200 冊

基本目標③ 誰もが進んで利用できる安心・安全・便利な図書館

(1) インターネットサービスについて

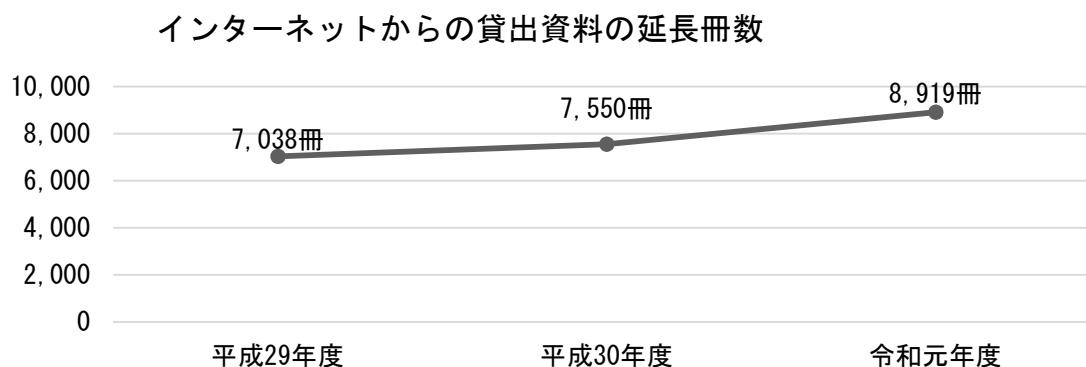
インターネットサービスとして、図書館の書架にある資料や貸出中資料の予約、借りている資料の延長、利用照会等を行っており、インターネットからの資料の予約件数や延長冊数については、年々増加しています。

しかしながら、令和元年度の利用者アンケート結果を見ると、インターネットサービスの認知度はいまだ低い状況です。

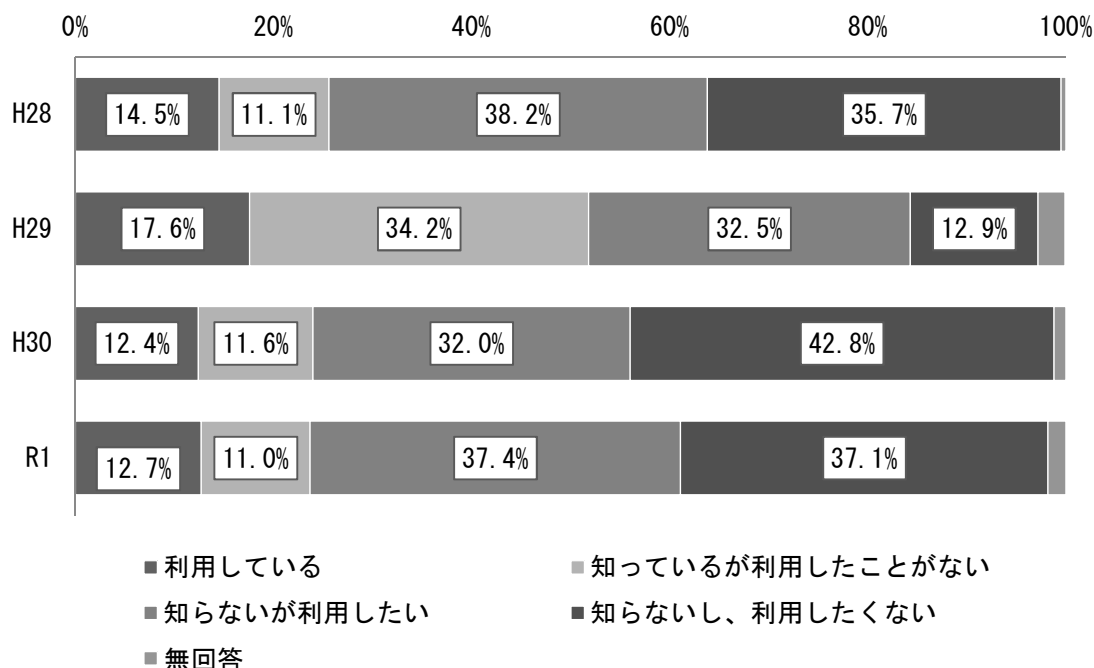
【課題】

図書館カウンターやウェブサイトで案内をしていますが認知度がまだ低いため、図書館を便利に使っていただけるよう更に周知していく必要があります。

また、ウェブサイトについても、引き続き新刊情報を毎週更新するなど、新鮮な情報の掲載を維持することが必要です。



インターネットサービスをご存知ですか



(2) 図書館の利用が困難な方へのサービスについて

図書館から遠い地域に居住している70歳以上の方の利用傾向をみると、居住地が山東・近江地域の方の貸出冊数は4.0冊に対し、伊吹・米原地域の方はそれぞれ2.7冊、2.4冊となっています。全体をみても、図書館から遠い地域に居住している方の利用が少ない傾向があります。

図書館の利用にハンディキャップがある方や、日本語を母語としない人へのサービスとして、大活字本や点字資料・外国語資料等の計画的な購入や、ボランティアと連携した対面朗読^{※7}等を行っていますが、十分に認知されておらず利用が少ない状況です。

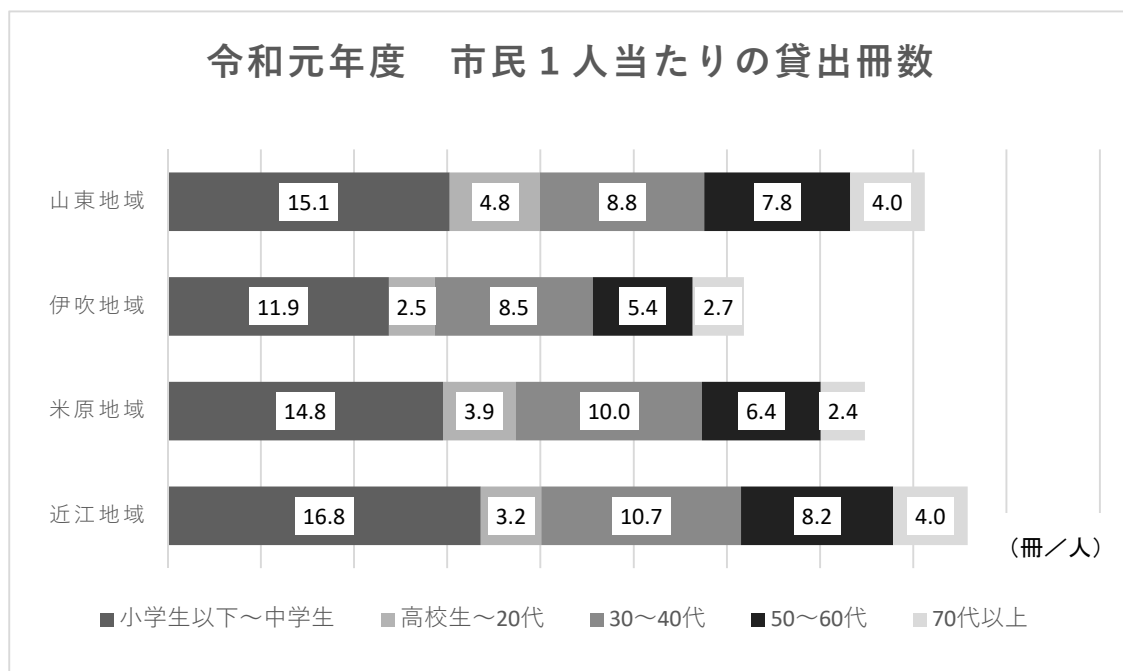
また、高齢者の読書支援として、高齢者施設への団体貸出^{※8}を行っていますが、貸出冊数は年々減少しています。

【課題】

伊吹薬草の里文化センターや米原学びあいステーションとの連携により、これらの施設でも市立図書館で借りた資料の返却や予約資料の受取等のサービスを行っていますが、認知は低い状況のため、更なる周知に努めるとともに引き続き連携して市内全域サービスに努める必要があります。

高齢者施設に対して行ったアンケートからは、図書館に来館して本を選ぶ団体貸出より、図書館から施設への定期的な配本を希望されている施設が多く、来てもらうだけでなく図書館から出向いてのサービスの検討も必要です。また、子どもや高齢者など、自ら図

書館に来館しにくい方に対して提供できるサービスを考えるなど、図書館の利用にハンディキャップのある方に対して、十分なサービスを提供するため、関係団体との連携等に努める必要があります。



指標	実績						目標
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
(9) インターネットからの予約件数	12,207 件	13,679 件	12,864 件	13,207 件	13,072 件	13,866 冊	13,000 件
(10) 大活字本の貸出冊数	1,356 冊	1,227 冊	1,282 冊	1,243 冊	1,611 冊	1,156 冊	1,300 冊
(11) 高齢者福祉施設への貸出冊数	1,624 冊	1,780 冊	1,074 冊	868 冊	654 冊	443 冊	850 冊

※7 対面朗読：視覚障がい者や印刷された通常の図書等を読むことが困難な個人のために、対面で音読すること。

※8 団体貸出：学級やボランティア団体等に、長期間、個人の貸出しよりも多くの冊数の本を貸出するサービス

基本目標④ 子どもたちの読書活動を見守り、支援する図書館

(1) 子ども読書活動の支援

米原市子ども読書活動推進計画に基づき、おはなし会等のイベントやブックスタートに取り組むとともに、子どもたちの発達段階や興味・関心に応じた資料の収集に努めました。

また、出前講座^{※9}や職場体験の受入れ、新小学1年生への利用カード配布等をとおして子ども読書活動の推進に努めました。

さらに、学校図書館リニューアルの実施や学校司書^{※10}配置への支援を行い、多くの学校で学校図書館の整備を進めることができましたが、まだ実施できていない学校があります。

【課題】

少子化に伴い児童書の貸出冊数も減少し、おはなし会への参加者も低年齢化しています。年齢が上がるほど利用が減少していることから、乳幼児期からの読書習慣の形成を図るために、家族みんなで本に親しめるような取組や呼び掛けを行うなど、児童サービスを更に充実させることが課題です。また、学校図書館との連携方法を検討し、子ども読書活動を支援していく必要があります。そのためにも、学校図書館リニューアルの未実施校への支援や、実施校への継続的な連携と支援が必要です。

※9 出前講座：市民の申込みを受け、市の職員等が市民生活や生涯学習の推進に役立つ情報を届け、市民の学びを応援する本市の取組

※10 学校司書：学校図書館の運営の改善および向上を図り、児童または生徒および教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員
平成26年6月に学校図書館法が一部改正され、配置の努力義務が規定された。

指標		実績						目標
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
(12)	出前講座 実施回数	18回	18回	18回	19回	13回	7回	20回
(13)	児童書個人貸出冊数	170,031冊	166,459冊	163,707冊	164,108冊	158,913冊	99,975冊	105,000冊
(14)	児童書団体貸出冊数	14,382冊	12,206冊	17,172冊	14,928冊	13,100冊	12,445冊	13,500冊

基本目標⑤ 地域の人たちとの協力・協働で目指す、交流の場となる図書館

(1) 市民との協働について

幅広い分野の最新情報を提供し、市民と協働で図書館資料の充実を図る目的で、平成24年度から雑誌スポンサー制度を継続して実施してきました。支援していただいている雑誌については雑誌書架や図書館ウェブサイト等で公開しており、市民に定着してきています。今後も雑誌スポンサーやサポーターを募り、雑誌数を充実させていくことが求められます。

図書館のイベント等についても、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度は開催が困難な状況になりましたが、それまでの間は多くのボランティアに支援いただき、開催することができました。

両館の定例おはなし会やブックスタート^{※11}での読み聞かせ、図書や貸出袋の修理等の活動を継続的にしていただきました。

また、ボランティアグループと連携して、ボランティアグループ主催のコンサートや講演会、写真展、まいばら協働事業「ワクワクおはなしライフ」等の実施や、技術講習・情報交流の場としてボランティア交流会を開催しました。そのほかに、市民が学んだ成果を発表し学び合える場として図書館講座を開催しました。

※11 ブックスタート：絵本を通じて親子のふれあいを深め、子どもの言葉と心を育むことを支援するために、全ての赤ちゃんと保護者にメッセージを伝えながら絵本を手渡す取組

【課題】

市民力のある図書館として、図書館と市民、市民同士のつながりを大切にし、今後も継続して図書館を支援していただける環境を保ちながら、現在十分でないサービスを実施するために協力いただける方の募集に努める必要があります。更に、市民とともに事業を企画・運営していくことで事業の幅を広げていくことも必要です。また、市民の興味・関心事や地域の課題を把握し、図書館から情報発信するとともに、自治会やまちづくり関係団体と連携していくことが必要です。

(2) 読書環境の工夫改善について

図書館の環境については、令和元年度の利用者アンケートで 89%の方が「快適」と答えています。山東図書館・近江図書館ともに施設の老朽化が進んでおり、計画的な修繕を実施する等適切な施設管理を行い、快適な環境を整えていくことが必要です。

【課題】

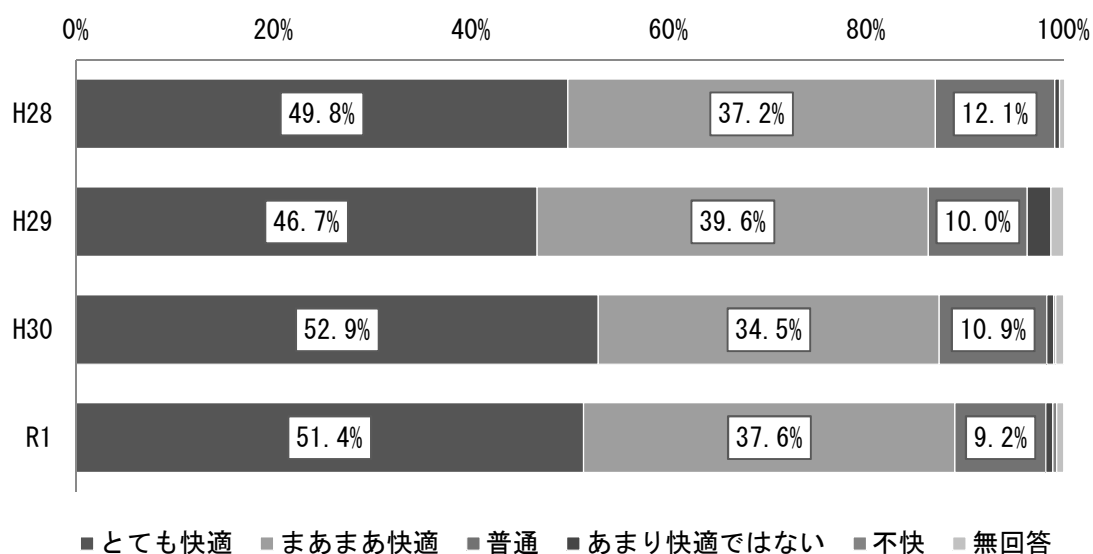
利用者アンケートを継続的に実施し、市民の意見を把握・分析することで随時読書環境を改善していく必要があります。また、日々変化する状況の中でも市民に安心して利用していただけるよう、様々な対策を講じて図書館運営を行っていく必要があります。

指標		実績						目標
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
(15)	ボランティアと活動した回数	79回	78回	84回	80回	66回	12回	90回
(16)	図書館を利用した講座等の開催回数	5回	6回	5回	6回	1回	3回	6回

雑誌スポンサー制度

	山東図書館		近江図書館		合計	
	スポンサー数	雑誌数	スポンサー数	雑誌数	スポンサー数	雑誌数
H29	35者	51冊	23者	32冊	58者	83冊
H30	35者	48冊	22者	30冊	57者	78冊
R1	41者	53冊	22者	30冊	63者	83冊
R2	35者	49冊	20者	31冊	53者	80冊

図書館の環境は快適ですか



基本目標⑥ 専門性を持った職員によるサービスが保障される図書館

多様化する市民の資料要求に応えるためには、職員が専門職としてのスキルアップを行い、質の高いサービスを提供することが必要となります。図書館が組織として専門性を発揮できるよう、内部研修の実施や職員の経験や業務内容に応じた外部研修へ積極的に参加し自己研鑽に努めています。

【課題】

職員対応満足度を上げるため、引き続き接遇の研修を実施するなど組織としてのスキルアップに取り組み、両館で同水準のサービスを提供できるよう努める必要があります。また、職員が外部研修等に参加できる体制を維持することも必要です。

指標	実績						目標
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
(17) 職員の研修等参加回数	20回	9回	18回	26回	34回	22回	20回
(18) 職員対応満足度	82.5%	78.7%	77.5%	79.9%	77.8%	67.1%	90%

基本目標⑦ 山東・近江2館の個性を生かす図書館

地域の情報拠点として、広い市域へ効果的な図書館サービスを提供するため、それぞれの館で小冊子やテーマ特集展示等の本の提案方法や、開催するイベント内容に創意工夫を凝らしました。地域の人から支持される居心地の良い図書館を目指して利用促進に努めており、平成30年度・令和元年度の個人貸出冊数が同規模自治体の中で全国第1位^{※12}になるなど、高い利用実績を上げることができました。

蔵書の面では、山東図書館では蛸と伊吹山について、近江図書館では埴輪と城郭についての資料を積極的に収集しています。基本となる資料は両館で分担することで幅広く収集し、両館が一体となって計画的な蔵書の構築に努めています。

【課題】

両図書館の利用傾向をみると、山東図書館では貸出冊数・利用人数ともに年々減少していますが、70代以上の利用が増加しており、郷土や歴史小説についての問合せが増えてきています。近江図書館では貸出冊数・利用人数ともに微増しています。子ども連れの利用が増加しており、子どもの資料についての問合せが増えてきています。地域の現状に合わせて資料や情報を収集・提供し、誰もが身近に利用できる文化・情報拠点として市民のニーズに応える図書館サービスを行う必要があります。

両図書館で利用が減少している若年層に対しては、図書館や読書への興味を持ってもらえるような情報の発信やイベントを検討するほか、利用促進につながるように情報を収集していくことが求められています。

指標		実績						目標
		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
(19)	市民が1年間に読んだ本の冊数	20.4冊	—	—	15.6冊	—	14.4冊	24.0冊
(20)	テーマ特集展示回数	330テーマ	357テーマ	346テーマ	396テーマ	401テーマ	285テーマ	330テーマ
(21)	若年層の貸出冊数	109,899冊	100,060冊	87,732冊	85,219冊	80,073冊	57,887冊	62,000冊

※12 平成30年度・令和元年度の個人貸出冊数が同規模自治体の中で全国第1位：

『図書館年鑑2020』『図書館年鑑2021』（日本図書館協会）掲載

令和元年度個人貸出冊数が人口3万人以上4万人未満の90市区中第1位

平成30年度は93市区中第1位。なお、予約受付件数はどちらの年度も全国で第2位

2 令和2年度図書館利用者アンケート結果から

○調査の概要

回答方法	アンケート用紙または米原市公式ウェブサイトから回答
調査時期	令和2年12月10日から令和3年1月15日まで
回答者数	575人（山東 265人 近江 305人 Web 5人）

山東図書館・近江図書館の来館者を対象に令和2年度図書館利用者アンケートを実施しました。このアンケートではこれまでの質問に加え、新たに「図書館の来館頻度」「1か月間の本や雑誌の読書冊数」「図書館を利用する目的」「今後の図書館サービスとして力を入れるべきと思うもの」について尋ねています。

「図書館の来館頻度」については、約5割の人は本の貸出期間と同じ「2週間に1回」と回答していますが、「1週間に1回」という回答が約1割、「1か月に1回」という回答が約2割となっています。インターネットからの資料の延長が増えていることから「1か月に1回」利用される方が増えていると考えられます。

「1か月間の本や雑誌の読書冊数」については、「1～5冊」という回答が最も多く、平均すると月6.7冊読まれています。米原市民全体の1か月に読んだ冊数は平均1.3冊であることから、まいばら読書の日の取組において市民の読書活動を推進し、図書館未利用者へPRを行っていくことが必要です。

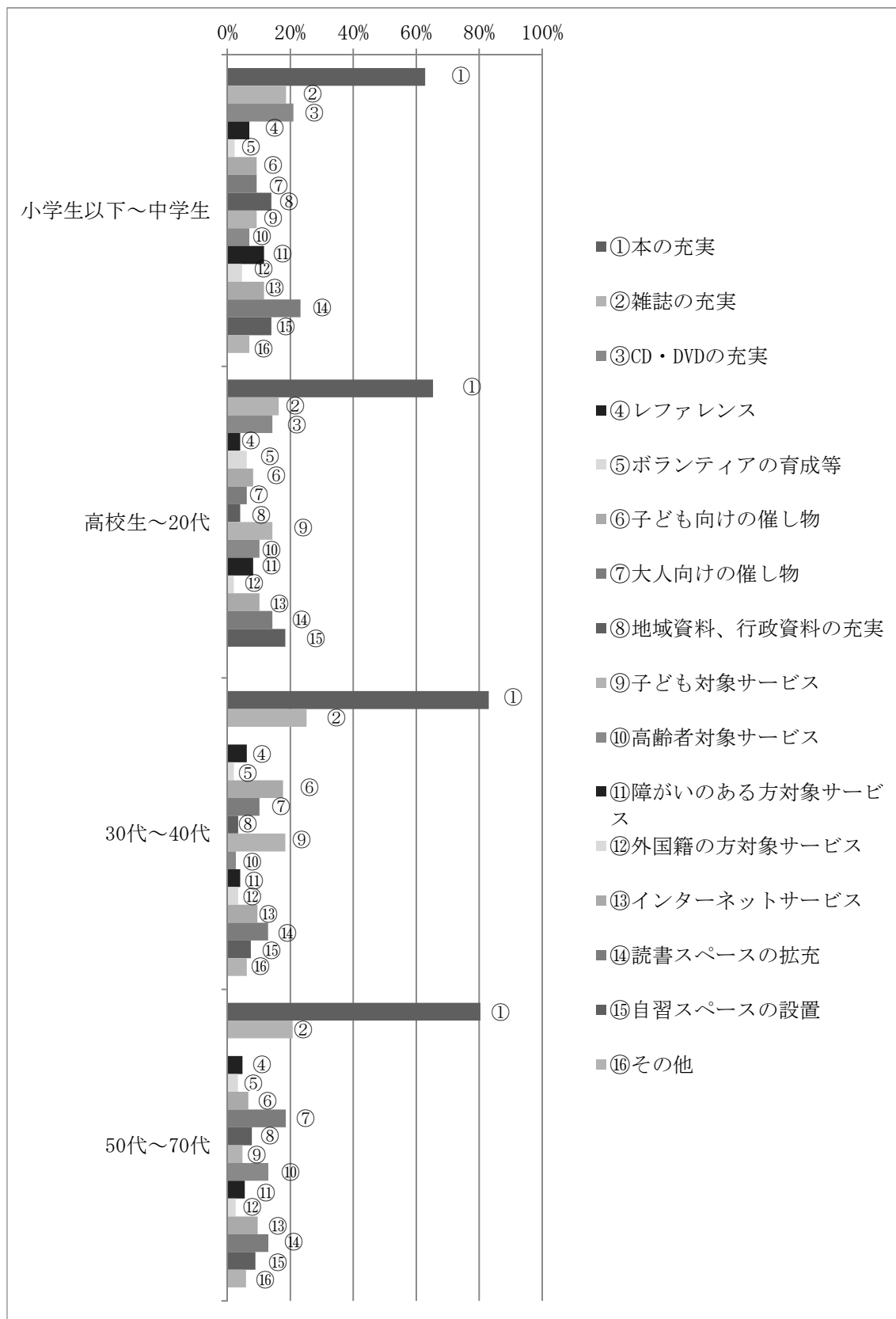
「図書館を利用する目的」については、「自分の読みたい本を借りる」が最も多く、次いで「家族が読む本を借りる」「雑誌を借りる」と本の貸出目的での利用が主になっています。

「館内で本や雑誌を読む」という回答が1割ほどを占めており、館内でゆっくり本や雑誌を読める環境整備も重要です。

「今後の図書館サービスとして力を入れるべきと思うもの」については、どの年代でも「本の充実」が最も多くなっています。利用者への資料提供は図書館の重要な役割の一つのため、今後も貸出を図書館サービスの基本に据え、市民の多様な資料要求に応えられる蔵書の構築が求められています。

年代別で見ると、小・中学生は「読書スペースの拡充」や「CD・DVDの充実」、高校生～20代は「自習スペースの設置」「読書スペースの拡充」「雑誌の充実」「CD・DVDの充実」、30代は「子ども向けの催し物」や「子どもを対象としたサービス」、40代は「雑誌の充実」「大人向けの催し物」、50代は「読書スペースの拡充」「雑誌の充実」「障がいのある方を対象としたサービス」、60代以上は「大人向けの催し物」「高齢者を対象としたサービス」に力を入れるべきとの回答が多くありました。どのサービスも市民に図書館を利用してもらう上で必要なサービスのため、年度ごとに重点的に取り組む項目を定め、計画的にサービスを向上していく必要があります。

今後の図書館サービスとして、力を入れるべきと思うもの



第3章 図書館の目指す姿

1 計画の基本的な考え方

図書館は、基本的人権の一つとして知る権利を保障する生涯学習機関であり、市民の誰もが利用できる地域の情報拠点です。

市民がより豊かで潤いのある文化的な生活を営むために、市民の暮らしに寄り添い、日常生活における様々な課題を解決するための資料や情報を提供します。

また、米原市自治基本条例に基づき、自治の確立および市民福祉の向上を目指すためには、市民が自ら必要な情報を幅広く収集し、的確に意思決定することが重要となります。市民一人一人が求める情報や知識を的確・迅速に提供することにより、地域とつながり、地域の課題解決を支援します。

そして、全ての市民の「知りたい」「学びたい」という思いに応え、人々が集い、お互いに学び合える環境づくりを地域との協働により目指します。

本計画では、市立図書館の現状と課題を踏まえた上で図書館サービスの総合的な向上を図り、市民の豊かな生活と学びを支援していきます。

基本理念

暮らしに寄り添い、地域とつながり、学び合える図書館

～誰もが身近に利用できる文化・情報拠点を目指して～

2 計画の基本目標

基本理念を実現するため、5つの基本目標を定め取り組みます。

- 基本目標 1 市民の求める資料を提供します
- 基本目標 2 誰もが安心して利用できる便利な図書館を目指します
- 基本目標 3 子どもたちの読書活動を見守り、支援します
- 基本目標 4 市民と協働し、交流の場となる図書館を目指します
- 基本目標 5 山東図書館・近江図書館の個性を生かしたサービスを提供します

第4章 具体的な取組

1 具体的な取組

基本目標 1 市民の求める資料を提供します

市民の多様化するライフスタイルや学習ニーズに対応し、様々な生涯学習活動を支援するために、幅広い資料や情報の収集・提供に努め、市民の知る権利を保障します。

項目	内容	方向性
蔵書の充実	米原市立図書館資料収集方針 ^{※13} に基づき、多様な価値観・観点から幅広い資料の収集に努めます。	継続
	定期的に資料選定委員会 ^{※14} を開催し、新鮮で豊富な資料を収集します。	継続
	米原市立図書館資料廃棄基準 ^{※15} に基づき、資料の計画的な除籍を行い、収蔵スペースを確保します。	継続
市民が求める資料の提供	予約・リクエスト制度や相互貸借の活用により、市民の求める資料を提供し、市民の知る権利を保障します。	継続
	各図書館の端末で国立国会図書館のデジタル化送信サービスや滋賀県立図書館の近江デジタル街道等の情報を提供します。	新規
レファレンスサービスの拡充	市民の多種多様なレファレンスに応えるため、辞典や年鑑、統計等のレファレンス資料の充実に努めます。	継続

※13 米原市立図書館資料収集方針：米原市立図書館が所蔵する図書館資料の収集に関して、基本方針や収集方法、収集手続等について定めた方針
市民の知的関心に応える証として、ウェブサイトで公表している。

※14 資料選定委員会：資料の収集および所蔵を決定する組織
山東図書館および近江図書館の職員の代表で組織し、委員長は館長が務める。

※15 米原市立図書館資料廃棄基準：米原市立図書館が所蔵する図書館資料を適切に管理し、調和のとれた資料構成の維持を図るために定めた廃棄基準

項目	内容	方向性
レファレンスサービスの拡充	レファレンスサービスについて、館内掲示やウェブサイト等で積極的・効果的な周知に努め、市民が気軽にレファレンスを受けることができる環境をつくります。	拡大
	関係各課や関連する機関と連携し、迅速で精度の高いレファレンスサービスに努めます。	継続
	職員のレファレンス技術向上のため、定期的に研修を行います。	継続
地域に関する資料・行政資料の収集	市内の機関、団体、在住者等が作成した地域に関する資料を積極的に収集・保存します。	継続
	地域に関する新聞記事等を収集・保存します。	継続
	関係各課や関連する機関と連携し、行政資料等の収集に努め、学校での地域学習に役立つように情報を提供します。	拡大

基本目標 2 誰もが安心して利用できる便利な図書館を目指します

図書館は、赤ちゃんから高齢者までの全ての人に、あらゆる資料・情報・知識を提供する施設です。全ての市民が安心して図書館を利用できるようサービスに努めます。

項目	内容	方向性
利用者のプライバシー保護	図書館電算システムを確実に運用し、利用者のプライバシーを守ります。	継続
図書館の利用にハンディキャップを持つ市民へのサービス	大活字本や点字本、LLブック ^{※16} 等の計画的な購入に努めます。	継続
	「手と手をつなぐ米原市手話言語条例」に基づき、手話に関する資料の収集に努めます。	継続
	ボランティアとの連携で対面朗読を行います。	継続

※16 LLブック：誰もが読書を楽しめるように工夫して作られたやさしく読みやすい本
日本語が得意ではない人や知的障がいのある人も楽しめるように、イラストや写真・記号を多く添えている。

項目	内容	方向性
図書館の利用にハンディキャップを持つ市民へのサービス	関係課や関連する機関との連携を強化し、情報収集するとともにハンディキャップを持つ市民にも利用してもらえるよう利用案内に努めます。	拡大
高齢者の読書支援	高齢者施設等への団体貸出について周知します。	継続
	高齢者が集う場所等からの要望と読み聞かせボランティアをつなぐ支援を行います。	拡大
	高齢者の来館を促進するために、健康情報や歴史に関する資料等、高齢者の関心の高い資料を収集し提供します。	継続
日本語を母語としない人へのサービス	外国語資料や日本語を学ぶための資料を計画的に収集します。	継続
	他言語の利用案内やイベントチラシを作成し、利用を促進します。	新規
	関連する団体等との連携を強化し、サービスの周知に努めます。	拡大
市内全域サービス	図書館間の物流を確保し、貸出・返却等の利便性を図ります。	継続
	伊吹薬草の里文化センターや米原学びあいステーションと連携し、市内全域へのサービスに努めます。	継続
	新庁舎に返却ポストを設置するなど、駅利用者の利便性の向上に努めます。	新規
図書館ウェブサイトの充実	ウェブサイトの新刊情報を毎週更新するなど、新鮮な情報の掲載を維持し、最新の情報を市民に伝えます。	継続
	図書館を便利に使ってもらえるように、インターネットサービスについて周知を拡大します。	継続
市立図書館における「まいばら読書の日」の取組	幼少期からの読書習慣の形成と家族みんなで読書に親しむ機会の確保に努めます。	新規
	年齢に合わせたおすすめの本の紹介やコーナーを設置します。	新規
	「まいばら読書の日」のポスターを作成し、読書活動の啓発と促進に努めます。	新規

	伊吹山テレビや広報誌、図書館のウェブサイトなどで「まいばら読書の日」の広報を行います。	新規
	図書主任 ^{※17} や学校司書と連携して、子どもたちの読書意欲を高める取組を行います。	新規
	地域お茶の間創造事業等と連携して、市民の読書意欲向上に努めます。	新規
赤ちゃんから高齢者まで、誰もが安心して利用できる環境づくり	誰にでも分かりやすい書架図や館内案内（サイン）等、掲示物を工夫します。	継続
	市民が安全で快適に図書館を利用できるよう、クレンリネス ^{※18} を徹底するとともに、市民が声を掛けやすい雰囲気づくりに努めます。	継続
	ウィズコロナ、アフターコロナへの対応など状況に応じて、市民に安心して利用していただけるように、様々な対策を講じ、図書館を運営します。	継続

基本目標3 子どもたちの読書活動を見守り、支援します

米原市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもの読書活動の推進に必要な施策を実施します。

項目	内容	方向性
蔵書の充実	絵本や児童書を計画的に収集し、子どもたちの多様な読書要求に対応した奥行きのある蔵書や、時節に応じた展示やテーマ特集など児童サービスを充実させます。	継続
調べ学習おすすめブックリストの作成	調べ学習資料の提供やおすすめブックリスト等で本の紹介を行い、子どもたちの学習支援や読書支援を行います。	継続
ブックスタート	ブックスタート事業に取り組み、保護者に絵本を介した親子の触れ合いの大切さを伝え、家庭における読書習慣の形成や図書館の利用についての関心が持てるよう呼びかけます。	継続

※17 図書主任：学校図書館の専門的な知識を持ち、学校図書館の運営や活用について中心的な役割を担う教員

※18 クレンリネス：清潔で、安全で、快適な状態に保つこと。

項目	内容	方向性
年齢別絵本リストの作成と配布	ブックスタート後のフォローアップ事業として、親子がより絵本に親しめるよう、各年齢に応じた「おすすめブックリスト」を作成し、健診等で配布します。	継続
おはなし会の開催	乳幼児や小学校低学年を対象に、ボランティアと協働で毎月おはなし会を開催し、本との出会いの場を提供するとともに図書館利用を促し、親子で絵本に親しみながら継続した読書活動につながるよう働きかけます。	継続
イベントの開催	スペシャルおはなし会や図書館員体験・絵本づくり教室・ビブリオバトル ^{※19} 等のイベントを開催し、子どもの読書意欲の促進に努めます。	拡大
園への団体貸出	子どもたちの発達段階や季節・行事に応じた様々な本が手に取れるように、絵本セットの定期的更新や、園への利用案内を行い、団体貸出の拡充に努めます。	継続
学校への団体貸出	県立図書館とも連携しながら学校への団体貸出に対応し、子どもたちの読書活動を支援します。	継続
図書主任、学校司書との連携	学校教育課と連携して研修や情報交流の場を持つなど、図書主任、学校司書との連携を密にします。	拡大
ブックトーク ^{※19}	小学校・中学校に出向き、ブックトーク ^{※20} で多種多様な本を紹介し、読書意欲を高められるよう努めます。	継続
施設見学や職場体験の受入	小学校や中学校との連携により、児童・生徒への利用者教育にも努めるとともに、施設見学や職場体験を積極的に受け入れ、図書館の役割等について学ぶ機会を増やします。	継続

※19 ビブリオバトル：書評合戦とも呼ばれる。各自がおすすめの本を持ち寄り、本の面白さやおすすめのポイントについて紹介し合い、一番読みたくなった本を参加者の多数決で決定する書評会

※20 ブックトーク：1つのテーマに従って、何冊かの本を様々な角度から紹介し、本の楽しさを知ってもらうための手法

項目	内容	方向性
小学1年生への図書館利用カード発行	市内の小学1年生を対象に夏休み前に図書館利用カードを発行し、夏休みのイベント案内とともに配布し、図書館の利用を促進します。	継続
家族がみんなで本に親しめる取組や子どもの読書のPR	子育てに関する本や子どもにおすすめの本の紹介および講習会の開催などを行い、保護者や市民に対して、家族みんなでの読書や子どもの読書の重要性についてアプローチしていきます。	新規
県や他自治体との連携	県や他自治体と連携し、子どもの読書推進に関する事業を行います。	新規
地域との連携	放課後児童クラブや子育て支援センター、子ども食堂等へ本の貸出しやPRを行うなど、地域と連携し読書活動の推進に努めます。	新規

基本目標4 市民と協働し、交流の場となる図書館を目指します

市民との協力・協働により、市民力のある図書館を目指します。

項目	内容	方向性
雑誌スポンサー制度の実施	雑誌スポンサー制度を継続して実施することで、市民と協働で図書館資料の充実を図り、幅広い分野の最新情報を提供します。	継続
ボランティアのコーディネート支援	市民の希望する活動内容と業務が合致するようコーディネートに努め、継続的なボランティア活動を支援します。	継続
イベントの開催	生涯学習活動の支援や市民同士の交流の場を提供するために、講座やイベントを開催します。	拡大
協働事業の実施	市民とともに成長する図書館として、市民とともに事業を企画し実施します。	継続
利用者アンケートの実施	利用者アンケートを実施し、市民の意見を図書館運営に反映していきます。	継続
図書館協議会への意見照会	図書館のサービスを検証し意見を述べる機関として図書館協議会で活発な議論をしていただき、図書館サービスを向上させます。	継続

基本目標 5 山東図書館・近江図書館の個性を生かしたサービスを提供します

地域の情報拠点として山東・近江2館の個性を生かしながら、地域の現状に合わせたサービスを提供します。

項目	内容	方向性
若年層の利用促進	図書館や読書への興味を持ってもらえるように、SNSやウェブサイト、小冊子等の情報ツールを活用し情報提供していきます。	拡大
専門性を持った職員によるサービスの保障	研修等への参加により専門性の向上に努め、市民から信頼されるサービスを提供します。	継続

山東図書館

項目	内容	方向性
施設利用者への利用促進	ルッチプラザのイベント等と連携した特集展示や企画を行います。また、施設内のスペースを有効活用し、利用者の利便性の向上に努めます。	拡大
資料の分担収集	蛸や伊吹山に関する資料や、白書等の年次刊行される資料を積極的に収集・保存します。	継続

近江図書館

項目	内容	方向性
施設利用者への利用促進	近江はにわ館の展示やイベントと連携した特集展示や企画を行います。また、施設内のスペースを有効活用し、利用者の利便性の向上に努めます。	拡大
資料の分担収集	埴輪や城郭に関する資料や、滋賀県から年次刊行される資料を積極的に収集・保存します。	継続

2 新規・拡大して取り組む事項

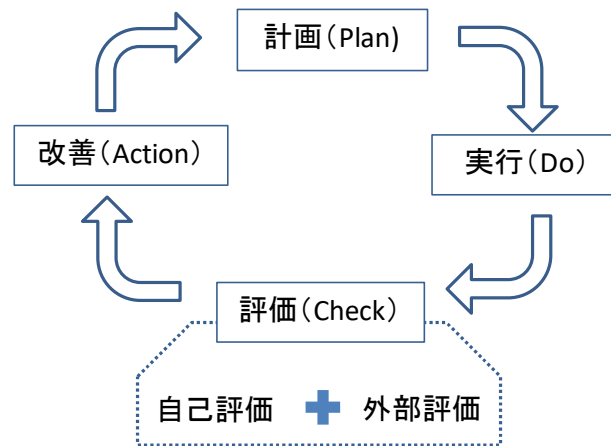
新規や拡大する取組については年度ごとに重点的に取り組む事項を定め、計画的にサービスを行います。

●準備 ➡ 実施

取組項目		R3	R4	R5	R6	R7	R8
基本目標 1 市民の求める資料 を提供します	国立国会図書館 デジタル化 送信サービスの提供	●	➡				
	レファレンスサービスの周知	➡					
	地域学習資料の学校への情報 提供	➡					
基本目標 2 誰もが安心して利 用できる便利な図 書館を目指します	関係機関との連携の強化・ ハンディキャップを持つ人へ の利用案内	●	➡				
	高齢者施設への読み聞かせボ ランティアのコーディネート 支援		●	➡			
	他言語の利用案内作成		●	➡			
	駅利用者の利便性の向上	●	➡				
	まいばら読書の日	➡					
基本目標 3 子どもたちの読書 活動を見守り、支 援します	図書主任・学校司書との連携	➡					
	本に親しめる取組や子どもの 読書の PR	➡					
	県や他自治体との連携	➡					
	地域との連携		●	➡			
基本目標 4 市民と協働し、交 流の場となる図書 館を目指します	講座やイベントの開催	➡					
基本目標 5 山東図書館・近江 図書館の個性を生 かしたサービスを 提供します	SNS やウェブサイト、小冊子を 用いた情報提供による若年層 の利用促進	➡					
	ルッチプラザやはにわ館と連 携した特集や企画の実施	➡					
	各館でのイベントの実施	➡					

第5章 指標の設定と評価

本計画で提示した施策や取組を計画的かつ実効性をもって推進するため、以下に挙げるような指標を設定し、その数値目標の達成状況等について、自己点検・評価をするとともに、市民参加による外部評価の実施に努め、評価結果はインターネット等を活用して公表します。また、評価の結果に基づき運営の改善に努めます。



指標	単位	現状値		R 8 目標値
		年度	数値	
1 市民の求める資料を提供します				
(1)	市民1人当たり図書館貸出冊数 ※当該年度の年間個人貸出冊数 ÷米原市の人口	冊	R 1 9.7 R 2 6.7	12.5
(2)	蔵書更新率 ※蔵書冊数のうち更新(受入れと 除籍)された冊数の割合	%	R 1 3.2 R 2 4.6	5.0
(3)	蔵書回転率 ※当該年度の年間個人貸出冊数 ÷蔵書冊数	回	R 1 1.3 R 2 0.9	1.5
(4)	レファレンス満足度 ※利用者アンケートで「レファ レンスサービスについてどう思 いますか」に対して「満足して いる」「普通」と答えた人の割合	%	R 1 98.0 R 2 98.5	100

指標		単位	現状値		R 8 目標値
			年度	数値	
(5)	地域資料・行政資料の貸出冊数 ※当該年度に貸出した郷土資料・ 行政資料の貸出冊数	冊	R 1	1,383	1,300
			R 2	1,084	
2 誰もが安心して利用できる便利な図書館を目指します					
(6)	市民の実利用者率 ※当該年度に図書館の貸出を利用した市民の割合	%	R 1	14.7	15.0
			R 2	11.1	
(7)	インターネットからの予約件数 ※当該年度に受け付けたウェブ サイトなどからの予約件数	件	R 1	13,072	16,000
			R 2	13,866	
(8)	高齢者施設等への貸出冊数 ※高齢者施設等への団体貸出冊 数	冊	R 1	654	3,200
			R 2	443	
3 子どもたちの読書活動を見守り、支援します					
(9)	児童書個人貸出冊数 ※個人に貸し出した児童書（絵 本、紙芝居を含む）の冊数	冊	R 1	158,913	160,000
			R 2	99,975	
(10)	児童書団体貸出冊数 ※団体に貸し出した冊数のうち 児童書の冊数	冊	R 1	13,100	15,000
			R 2	12,445	
(11)	未就学児および小中学生向けの冊 子・たよりの発行回数 ※未就学児と保護者、小中学生等 を対象にした冊子・たよりの発 行回数	回	R 1	14	20
			R 2	16	
(12)	15歳以下の市民1人当たり図書館 貸出冊数 ※15歳以下の市民の年間個人貸 出冊数÷15歳以下の市民の人 口	冊	R 1	15.6	18
			R 2	8.7	

指標		単位	現状値		R 8 目標値
			年度	数値	
(13)	1か月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合	%	R 1	小学校：96.8 中学校：87.6	小学校： 100 中学校： 97.0
	※米原市の小・中学生のうち、1か月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合		R 3	小学校：96.0 中学校：95.2	
(14)	「まいばら読書の日」の啓発・情報発信等の取組回数 ※「まいばら読書の日」についての啓発や情報発信等を行った回数	回	R 3	6	10
4 市民と協働し、交流の場となる図書館を目指します					
(15)	ボランティアと活動した回数 ※おはなし会、図書の修理、イベントなどボランティアと活動した回数	回	R 1	66	80
			R 2	12	
(16)	行事・イベント開催回数 ※行事やイベントを行った回数	回	R 1	59	70
			R 2	14	
5 山東図書館・近江図書館の個性を生かしたサービスを提供します					
(17)	職員対応満足度 ※利用者アンケートで「職員の対応はいかがでしたか」に対して「良かった」「普通」と答えた人の割合	%	R 1	99.3	100
			R 2	98.5	
(18)	テーマ特集展示回数 ※当該年度に作成したテーマ特集の数	テーマ	R 1	401	370
			R 2	285	

米原市立図書館サービス基本計画（第2次計画）

発行／令和4年2月

発行者／米原市教育委員会

事務局／米原市立山東図書館

〒521-0242 米原市長岡 1050 番地 1

T E L 0749-55-4554

F A X 0749-55-4557

米原市立近江図書館

〒521-0072 米原市顔戸 281 番地 1

T E L 0749-52-5246

F A X 0749-52-8177